



## ■建築年代

明治 11 (1878) 年

## ■指定年月日

昭和 45 (1970) 年 6 月 17 日

## ■所在地

札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

## ■お問い合わせ

時計台 ☎231-0838

## ■観覧形態

内部観覧可

## ■観覧時間

8 時 45 分～17 時 10 分 (入館は 17 時 00 分まで)

(貸ホール 17 時 30 分～21 時 00 分)

## ■休館日

年始 (1 月 1 日～3 日)

## ■観覧料

大人 200 円 (20 人以上団体 180 円) 高校生以下 無料

札幌市民は毎月 16 日無料 身体障害者手帳をお持ちの方など  
減免規定あり。お問い合わせください。

## ■アクセス

地下鉄「大通」31 番出口より約 280m

JR・中央バス「時計台前」



## ◎完成後に時計塔を付設

この建物は、札幌農学校の演武場として、初代教頭クラークの帰国後、第 2 代教頭ホイラーの構想に基づき、開拓使工業局の設計・監督により、明治 11 (1878) 年 10 月に完成した。

明治 14 (1881) 年、時計塔を付設し、同 21 (1888) 年 1 月、札幌の標準時計とすることが告示された。

建築の意匠は、簡素で装飾の少ない米国の中西部建築様式の影響を受けた実用建築で、わが国では類例の少ない開拓使時代の建築として貴重なものである。

## ◎演武場から公会堂へ

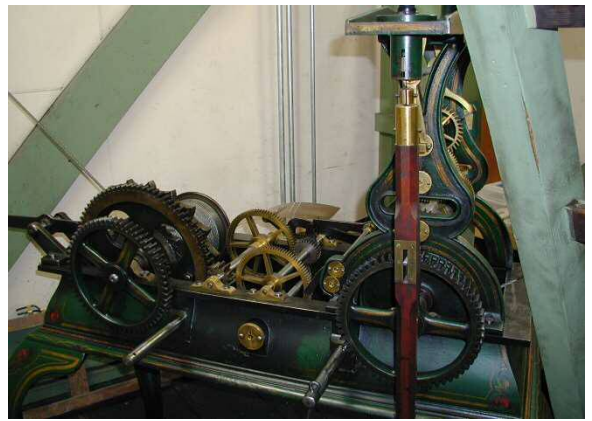
マサチューセッツ農科大学を手本にした札幌農学校は、武芸科 (兵学科) を設置し、その兵式訓練を行うため、この演武場をつくった。

明治 36 (1903) 年 7 月、農学校は現在の北海道大学の位置に移転し、演武場と旧校地は札幌区に貸与され公会堂として使用された。

明治 39 (1906) 年、それらは札幌区の所有になり、建物は現在地に移された。旧位置は、現在の北 2



2階展示室と小屋組



ハワード社製時計機械（2階展示室）

条通りの路上と、北2条西2丁目にまたがる一帯であった。

その後、郵便局、教育会および図書館等に利用されたが、昭和36（1961）年6月札幌市指定の有形文化財第1号に、つづいて昭和45（1970）年6月国指定の重要文化財（時計機械は附指定）となった。

### ◎バルーン・フレーム構造

2階には天井がなく、小屋組（屋根を受けるための骨組み）が露出している。屋根の勾配方向に部材（合掌組）を約3.5m間隔にかけ、その上部をカラービーム（つなぎ材）で結ぶ、バルーン・フレーム構造としている。

軒けたはタイバー（丸鉄棒）で結び、さらに上方のつなぎ材の両端から鉄棒を下げてタイバーを釣っている。これはバルーン・フレーム構造（間柱構造）にみられる形式である。

### ◎振り子時計

時計の機械は、鳩時計と同様の振り子時計で、専門的には時打重錘振り子式四面時計と呼ばれ、動力にはおもりを利用している。この仕組みの時計としては、日本で原形のまま正確に作動している最も古い塔時計である。

おもりは、豊平川の玉石を木製の箱に入れたもので、重量は動力用が約50kg、鐘用が約150kgのものを使用している。おもりの巻き上げは人力で、3日に1回行っている。なお、時計は米国ハワード社製である。

### ◎文学などにも登場

この建物の実施設計・監督には、安達喜幸を中心とする開拓使工業局営繕課があたった。安達は開拓使を代表する建築家であるばかりでなく、その卓越した技術は、お雇い外国人からも高く評価されていたという。

時計台は、札幌を象徴する建物であり、文学や芸術作品にも、しばしば登場する。有島武郎の「星座」、高階哲夫作詞、作曲の「時計台の鐘」など是有名である。ゆかりの詩に、北原白秋の「この道」などがある。

### ◎外壁修理・耐震補強工事等

これまでに、何度か大規模な改修工事が行われてきたが、平成に入ってから、平成7（1995）年1月から同10（1998）年9月にかけては時計台保存修理事業として、屋根の葺替え、外壁塗装修理、耐震補強工事等が実施され、平成30（2018）年には劣化した屋根や外壁の塗装等を行う外部改修工事が実施された。

